

ふくやま実験クエスト 課題内容

No./名称	No.1/(仮題)鳥獣に関する問い合わせ対応と効果的な有害鳥獣対策
現状(背景)	<p>【鳥獣に関する問い合わせ】 本市には、市民等から鳥獣について、様々な問い合わせがある。 ●有害鳥獣の出没通報や対応策 ●死亡野鳥の処理 ●その他の動物等の出没通報や対応策 これらの問い合わせは多くが電話であり、市民等から詳細を聴き取って回答しているが、次のような問題がある。 ●土日祝や夜間の問い合わせに対応していない。 ●基本的に画像・映像がなく、多岐に渡る鳥獣の種類や状況の特定が困難なことが多い(職員による現地確認を要することもある。) ●鳥獣の種類や状況によって対応策は様々であることから、回答に時間がかかる場合がある。</p> <p>【有害鳥獣対策】 本市ではAIカメラによる捕獲活動・トレイルカメラを活用した出没確認や箱わな・大規模ワイヤーメッシュ柵の設置補助など、様々な対策に取り組んでいるが、次のような現状がある。 ●捕獲頭数が増加傾向にある。 ●市街地への出没頻度が増加している。 ●人的被害が発生している。</p>
目標(目指す姿)	<p>【鳥獣に関する問い合わせ】 市民等が、いつでも簡単に鳥獣への対応策などの情報を入手できる。また、問い合わせに対応する職員の負担が軽減されている。 【有害鳥獣対策】 個体数管理が適正に行われ、農作物や人的被害が抑制されている。</p> <p>※上記の一部のみの寄与でも提案可能</p>
目標達成に向けたアクションにおいて主に懸念される項目等	<p>【鳥獣に関する問い合わせ】 鳥獣の種類や状況に応じた適切な対応策の提示</p>

ふくやま実験クエスト 課題内容

No./名称	No.2/天然記念物の状況把握・分析の効率化
<p>現状(背景)</p>	<p>福山市内には、28件の天然記念物が所在している。これらは、樹木、草花、岩石や昆虫など自然の中に所在しているものが大半を占めており、環境の変化を受けながらも現在まで維持され、地域の自然環境を知る貴重な宝である。 例:エヒメアヤメ、石灰岩巨大礫、ゲンジボタルなど https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/soshiki/bunka/63787.html#shisekinado</p> <p>天然記念物の保存のため、気(天)候など様々な環境変化が与える影響を把握し、適切な保存手段を検討していきたいが、天然記念物の種別により状況把握の方法が大きく異なるうえ、山間部や崖上など人が立ち入りにくい場所に所在しているものもあり、状況把握に課題がある。</p> <p>【岩石・自然景観等】 変化は極めて少なく、長期の観察によりはじめて変化が分かる。</p> <p>【植物】 代替わりサイクル(種類によって長短あり)があり、種全体の変化を把握する必要がある。</p> <p>【生物(昆虫含む)】 一定の範囲で移動するため、生体(痕跡含む)の追跡、出生数の観測など適切な手法の選択が必要</p> <p>一例として、「エヒメアヤメ」の状況把握に関する現状は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●株数を職員が現地で計測しているため、多くの工数が必要。 ●気(天)候などの環境変化が与えている影響の把握が難しい。 ●細やかな状況把握が難しいため、有効な保存手段の検討が困難な状況である。
<p>目標(目指す姿)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生息数などを効率的に把握できている。 ●人が立ち入りにくい場所に所在する天然記念物の状況把握が円滑にできている。 ●気(天)候などの環境変化が天然記念物に与える影響を検討できる。 ⇒天然記念物を適切に管理・維持できている。 <p>※上記の一部のみの寄与でも提案可能</p>
<p>目標達成に向けたアクションにおいて主に懸念される項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●遠隔地に所在している場合、ウェブ機器などを接続する電波の不在 ●気(天)候などの環境変化の影響を個別・長期に分析するデータの不在

ふくやま実験クエスト 課題内容

No./名称	No.3/障がい福祉事業所の空き状況の迅速な把握とマッチング支援
現状(背景)	<p>障がい福祉サービスを利用する際は、利用希望者や支援機関が、利用可能な空き状況や提供サービスの特色などを個別に事業所に確認等を行っていると考えられ、近年、事業所数が増加したことから、その確認に手間と時間がかかっている。</p> <p>また、緊急のサービス利用が必要になる場合においては、事業所の利用可能な空き状況を迅速に把握し、できるだけ早く受け入れ先を探す必要がある。</p>
目標(目指す姿)	<p>障がい福祉事業所の利用可能な空き状況や活動内容をタイムリーかつ効率的に把握できる仕組みを構築することで、障がいのある方が円滑にサービスを受けられる環境を整える。</p> <p>※上記の一部のみの寄与でも提案可能</p>
目標達成に向けたアクションにおいて主に懸念される項目等	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所の種類によって、空き状況の表示方法を工夫する必要がある。(居住系サービスは、部屋の空き状況であるが、通所系サービスは受入れ可能な曜日・時間の空き状況となるため) ●取得する空き情報に、一定の正確性、適時性及び網羅性が保たれる必要がある。

ふくやま実験クエスト 課題内容

No./名称	No.4/いつでも誰もが楽しく通える高齢者の居場所づくり
現状(背景)	<p>○背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の高齢化率は年々上昇し、現状は29.2%、2026年には29.8%、2040年には34.1%となる見込み ・要介護(要支援)認定者は2035年まで増加し続け、介護保険給付費も増加を続ける見込み ・団塊の世代よりも若い高齢者の考え方が変わってきており、介護予防施策をニーズに即した柔軟かつ、より効果的な形に変えていく必要がある <p>○行政課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険給付費が年々増加し続けている ・要支援認定者数の割合が国・県平均より多い <p>○高齢者の居場所づくりの課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の固定化・高齢化 ・担い手の不足・高齢化 ・活動内容のマンネリ化 ・前期高齢者のニーズに合致していない
目標(目指す姿)	<p>○目標</p> <p>社会参加活動の増加や生活習慣の改善行動を促し元気高齢者を増やす</p> <p>○居場所の目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間のアイデアや運営手法を活用した新たな発想の居場所(前期高齢者のニーズに即した居場所) ・気軽に参加できる居場所(新たな担い手の活動場所となったり、あらゆる人が気軽に参加できたりする敷居の低い居場所) ・持続性のある居場所(参加者や担い手の世代交代がスムーズに進む居場所) <p>※上記の一部のみの寄与でも提案可能</p>
目標達成に向けたアクションにおいて主に懸念される項目等	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所までの移動手段(免許を返納している人等移動手段のない人への対応) ・居場所の周知(高齢者にはSNS等では伝わりにくい)
提供可能データ・環境等	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所の活動数や活動内容 ・現在高齢者の居場所づくりを委託している社会福祉協議会の意見等